

平成29年度全国学力学習状況調査結果

茅室町立上美生小学校
校長 濱口 重則

平成29年4月18日に全国一斉に行われた調査の、本校の結果概要をお知らせします。

本調査は小学6年生が対象で、今年度は、国語A・国語B・算数A・算数Bと生活習慣や学習環境等に関する質問調査がありました。

〈結果について〉

国語A～全国・全道の平均正答率よりも下回っている。

「話すこと・聞くこと」と「読むこと」では全国平均を上回り、特に「話すこと・聞くこと」では18.3ポイントも上回る大変良い結果だった。一方「漢字を書く問題」で、全国では平均正答率が高い「きぼう者」や「箱がおいてあります」などの簡単な書き取りで間違いが多く、「書くこと」では平均正答率が50.0%であった。

国語B～全国・全道の平均正答率よりも上回っている。

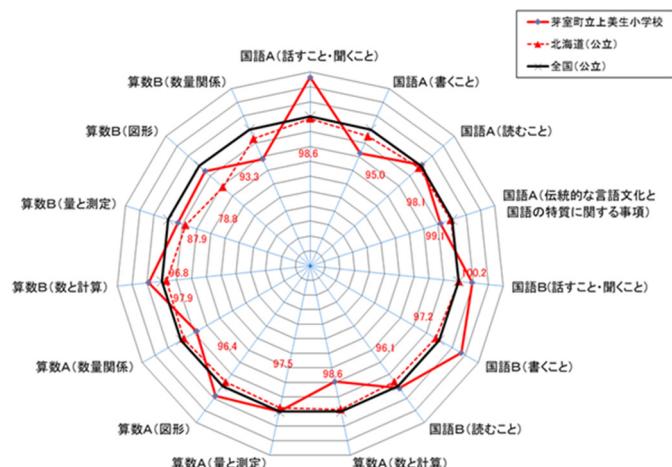
どの領域も全国平均を上回り、特に「目的や意図に応じて文章の構成を考える問題」や「目的や意図に応じ引用して書く問題」がよくできている。国語Aでは「書くこと」が課題であるが、国語Bにおいては「書くこと」が良くできいていて、全国では平均正答率の低いじっくり考えて書くような問題がよくできている。

算数A～全国・全道の平均正答率よりも下回っている。

「図形」では全国平均を上回っているものの、「数と計算」が特に低い。問題($5 \div 9$ の商を分数で表す)や問題($6 + 0.5 \times 2$)などの全国での平均正答率が高い基礎的な計算が理解できていない。

算数B～全道・全国の平均正答率よりも下回っている。

「数学的な考え方」で、全国で27.4%しかできていない問題で62.5%、全国26.1%の問題で50%など、全国の正答率が低い難しい問題がよくできているのに対し、正答率の高い簡単な問題を多く間違えている傾向がある。



〈改善策について〉

国語～各学年で学習する漢字を正しく読んだり書いたりして、繰り返し学習したりするなど、各教科等や日常生活で使用する文や文章での中で適切に使うなどの指導を強化する。漢字の形や成り立ち、漢字の持つ意味を考えながら深い学びを意識して指導する。国語のみならず、他の各教でも「書く活動」を増やし、目的意識をもって文章構成に注意しながら書く活動を強化する。

算数～各学年で学習する内容を繰り返し学習して、確実に身に付けるよう指導の改善を行う。特に「計算」については、授業中はもちろん、朝学習や宿題なども活用して繰り返し、定着を強化する。足し算と掛け算が混合している計算では、計算の順序についてのきまりを確実に理解できるように学び直しをするなど、確実な定着を目指す。

〈児童質問紙より〉

- ・家庭での暮らしでは、「毎日同じ時刻に寝る」などの基本的な生活習慣が定着している。
- ・1日のテレビを見る時間が全国・北海道の平均よりも短い。
- ・家庭学習では、予習・復習がしっかりと定着していないので、各教科の指導内容に合わせて、自ら家庭学習できるような指導法を取り入れる事が必要。
- ・「読書が好き」「国語の勉強が好き」の項目で「当てはまる」を選んでいる児童が少ない。(「算数が好き」はほぼ平均) このことから読書活動の推進など国語に関心を持ったための工夫が必要。